

---

目次

.....

【1】 --- 教員コラム 15 弾 第 3 回「読書の持つ意味」  
医療レギュラトリーサイエンス学 / 林憲一

.....

【2】 --- 緊急事態宣言に伴い、附属図書館は平日 20 時に閉館します

.....

【3】 --- 「古本募金」特別な 6 日間！600 円上乘せキャンペーン！

.....

【4】 --- 医書.jp の不適切な利用について

.....

【5】 --- 教室図書がフリマに流通していました

.....

[ Book Review ] ・ ・ ・ 編集後記にかえて

---

【1】 --- 教員コラム 15 弾 第 3 回「読書の持つ意味」

医療レギュラトリーサイエンス学 / 林憲一

.....

本稿を書いている 2021 年 8 月上旬に、新型コロナウイルスの感染拡大がやまない中、感染者の対応に当たられている関係者の方々には、誠にお疲れさまです。一方、緊急事態宣言下、先月下旬から開催されていた東京オリンピックが、日本人選手の大活躍もあり、成功裏に閉幕したことは、ホスト国として心から良かったと思います。このあとパラリンピックが控えていますが、感染状況が一刻も早く収束し、無事開催されるよう祈っています。

さて（ここからが本題です）、私が本学でお世話になるようになって、先月で 1 年になりました。昨年の夏は、やはりコロナ禍と蒸し暑さの中、引っ越しのための荷造り一特に大量の本の荷造り一には苦労しました。小さめの段ボール箱に詰めてもかなりの重さで、引越し業者も大変だったろうと思います。何しろ 40 年以上にわたって買い集めた本だけに、処分することなど思いもよらず、大方京都にそのまま持ってきてしまいました。

そんな本との付き合いですが、学生時代とその後の 30 数年の役所勤めの間は、ほぼ乱読（濫読）といえるものでした。たまに仕事関連の本にも目を通しましたが、たいていは、興

味をひかれるが仕事とは関係のなさそうな本を、書店や図書館で探して読んでいました。実際読むのは、もっぱら通学・通勤の行き帰りの電車内で、ひどい混雑のなかでも本を広げるくらいの際間はあったこと、1日のうちまとまった時間のとれる唯一の機会だったこと、周囲を気にせず集中できたことなどが、その大きな理由です。

さらに、たまたま読み始めた本が「当たり」のときは誠に幸運で、時間も忘れて読みました。今回、その中から昔読んでおもしろかった本を、ごく一部ですが、挙げてみたいと思います。

①What do you care what other people think? Richard P. Feynman

②武器としてのことば 茶の間の国際情報学 鈴木孝夫

③それでも、日本人は「戦争」を選んだ 加藤陽子

④環境リスク学 不安の海の羅針盤 中西準子

①は、好奇心のかたまりともいべき米国の物理学者 R.P.ファインマンが、奇想天外な冒険の数々を自ら語った一冊。とりわけ、彼が大統領のスペースシャトル事故調査委員会に加わったときのいきさつが痛快です。こうした委員会の裏側は日米であり変わりませんが、（この本の題名どおり）他人の思惑など気にしないファインマンという異分子がうまく機能して、事故の真相に迫っていくプロセスを追体験できるのは読書ならではの。

②日本は、西欧に偏った情報鎖国ともいえる状態からいまだに脱却できず、「ことば」こそが世界で他に伍していくための武器となるのにそのための努力もせず、客観的な事実認識の欠如ゆえに国際交渉で失敗するという本書の指摘は、まさに「目から鱗」であり、その後、私自身が国際機関に勤務することになった際にも、とても参考になりました。

③は、高校生への講義の形で、日清戦争以降、太平洋戦争までの国内の一連の政策判断について、日本と日本をとりまく国々との駆け引きやその裏にある各国の思惑に対する深い洞察とともに解き明かした労作。これを読んで、どうしてあのような戦争を始めるに至ったのか、当時の人々の感覚が理解できただけでなく、日本のこれからを考える上で、近現代史の深い理解が必須であることがよくわかりました。

④の著者は、日本の化学物質リスク評価の第一人者。1999年当時、日本で大きな社会問題となっていたダイオキシン騒ぎに、厚生省（当時）およびWHOで関わった私は、著者のブログをよく読んでいました。リスクにはトレードオフがあり、そのためゼロリスクを目指すのではなく、費用を含むリスクと便益を定量的に評価し、受容可能なレベルにリスクを抑えて管理することが重要という著者の主張は、「安全」と「安心」を混同しているように見える現在の新型コロナ対策にもあてはまるように思います。

今回、これらの本を久しぶりに読み返してみて、それまで自分にはなかった考えに触れてけっこう感心した当時のことを思い出しました。思うに、読書の持つ意味(と楽しさ)とは、自分も含めた多くの人が常識と思い込んでいるのとは違った考えに触れ、そこから刺激を受けて自分の考えをさらに深めていけるところにあるのではないのでしょうか。

最近、SNS の普及で手軽にわかる情報が重宝されるようになり、公共交通機関でも、読書している人を見かけることはめっきり少なくなりました。けれども、私たちには、これまで書物の形で蓄積されてきた、質・量ともに膨大な人類の知恵の記録があります。

日本の経済や医療は、今回のコロナ禍で甚大なダメージを被りました。ポストコロナの時代には、私たちはもしかすると、先の大震災のとき以上の困難を経験することになるかもしれません。そのとき自分で考えて判断できるように、社会を理解する新たなヒントを与えてくれる書物が見つかる限り、これからも本を読み続けていくのだらうと思います。

※過去の教員コラムは、[こちら](#)です。

---

## 【2】 --- 緊急事態宣言に伴い、附属図書館は平日 20 時に閉館します

.....

### [京都市立医科大学附属図書館](#) (8/18 更新)

平日 9:00~20:00

土曜 10:00~18:00

[日曜、祝日休館]

新型コロナウイルス感染症「緊急事態宣言」に伴い、2021/8/23(月)から附属図書館の閉館時間を午後 8 時にします。

短縮期間は 9/10(金)までの予定です。

### [京都市立医科大学附属図書館下鴨館](#) (8/18 更新)

平日 9:00~19:00

土日 9:00~17:00

[第 2 水曜、祝日、蔵書点検による臨時休館 2021/9/6(月)~10(金)]

同じ建物の京都学・歴彩館が臨時休館しているため、下鴨館の入館方法が変わります。詳しくは[京都市立大学附属図書館](#)へお問い合わせください。

電話：075-703-5130 Mail：counter@kpu.ac.jp



- ・ 1 回のログインの中で、150 以上の文献をダウンロードした場合
- ・ 1 回のログインの中で、360 分以上継続利用している場合
- ・ 5 分以内に 150 回以上。ログインがされた場合
- ・ 1 分間に 1 つの IP アドレスから 1000 以上のアクセスがあった場合

停止されると、大学全体で利用できなくなります。くれぐれも適切なご利用をお願い申し上げます。

<医書.jp オールアクセス> トライアル

国内出版社 12 社 94 誌の電子ジャーナルをトライアルで提供中です。※学内限定

◆アクセス先：<https://webview.isho.jp/journal>

◆トライアル期間：2021/9/30 まで

---

## 【5】 --- 教室図書がフリマに流通していました

.....

教室図書として登録されている図書がフリマアプリで売買されていました。

教室で不要になった教室図書は附属図書館へ返還をお願いします。

登録した図書は、中に大学名の入ったバーコード（資料 ID）を貼っています。教室にある図書を廃棄する際は、必ず確認してください。

※「教育研究費」で購入した図書は附属図書館で登録します。検品後に請求書と一緒に図書館へご持参ください。

※雑誌や科研費などで購入された図書は登録対象外です。

---

## [Book Review]

.....

浅田 次郎著『ハッピー・リタイアメント』（幻冬舎 2009）

一つは、前回紹介した「定年オヤジの改造計画」と同じく、同年代には気になる退職後の第二の人生の生き方というテーマである。プラス、財務官僚下がりの樋口と元自衛官の大友と教育係であった立花葵が意気投合し、天下り組織の理不尽さにメスを入れ、自分達らしい

矜り高き価値ある人生を歩み出す。数ある浅田小説の中で痛快娯楽小説。古い本ですが、まだお読みでない方は是非。こんな素敵な第二の人生。羨ましい！コロナ禍の暗い巣ごもり中、大いに楽しめる1冊だと思います。(K.M.)

(京都府立図書館所蔵「[K-Libnet](#)」でも貸出が可能です)

KPUM Library Booklog : <http://booklog.jp/users/kpumlib>

この本のページ : <https://booklog.jp/item/1/4344417100>

.....  
図書館メール News 第 446 号 2021.8.20 発行 (隔週金曜日発行)

編集・発行 : 京都府立医科大学附属図書館

[library@koto.kpu-m.ac.jp](mailto:library@koto.kpu-m.ac.jp)

<http://www.kpu-m.ac.jp/k/library/>

.....  
(図書館メール News のバックナンバーはこちらから↓)

<http://www.kpu-m.ac.jp/k/library/webservice/mailnews.html>